

## ご挨拶

本日は 'A-Winds 12 2003年夏の演奏会' にお越し頂き誠にありがとうございます。12回目の演奏会を迎えるにあたり「ここら豊かな文化の香り高き町：大和郡山市」の一つの標“やまと郡山城ホール”で皆様方とこうしてお逢いする機会を持つ事ができましたことに、A-Winds一同心より感謝しております。

我々A-Winds奈良アマチュアウィンドオーケストラは、1999年10月に新しい吹奏楽団として誕生しました。発足と同時に活動を始めて以来1999年12月の 'デビュー演奏会' を初めに、本日で12回目の演奏会を開催し、おかげ様をもちまして団員も50名にまで成長することができました。これも、皆様方のご指導ご支援あつての事と厚く御礼申し上げます。

団の名称でもある“ウィンドオーケストラ”は、弦楽器の無いオーケストラと言われているのですが、我々A-Windsはそこに弦楽器のコントラバスと、鍵盤楽器のピアノを加えた編成で、まだまだ音楽のジャンルとしては認知されていない“吹奏楽”という音楽形態を、この地元大和郡山市から発信するべく積極的な音楽活動を展開しています。

創団3年が過ぎ、団員一同更に思いを一つにし、今出来る、一番の音楽活動に取り組んでいく情熱に胸を膨らませ、本日素敵な演奏会が、また新しい活動につながりますよう思いを込め、団員を代表しまして今の心境を一句詠ませていただきます。

虹の橋 金の音銀の音 木霊して

今後とも、暖かいご指導ご支援の程、宜しくお願いたします。

A-Winds 奈良アマチュアウィンドオーケストラ  
団長 魚谷 昌克

本日は、ご来場頂き誠に有難うございます。

私どもA-Windsは年間三回の自主公演の演奏会を開催致しております。

例年その年度の締めくくりの「春の演奏会」はA-Windsの団員指揮者だけによる演奏会でしたが今年は「夏」に移動致しました。

A-Windsではエキストラをお願いする場合も、楽譜に記載されている最小限の楽器のみをお願いしております。これは出版されている楽譜が、演奏者の人数分の楽譜を一式にして販売されており、この楽譜の枚数分的人数で演奏する事が作曲者の意図を最も尊重した演奏形態ではないかという思いによるものです。

演奏の出来については力不足により作曲者には申し訳ない結果である事も多々ございますが、そのような心意気で演奏しており楽譜に記載が無ければ「降り番」と称して人数を減らす事もございます。

今年の「春の演奏会」は客演指揮者を招聘し、多くのエキストラの方々にご出演頂きお蔭で成功裏に終える事が出来たので、今回は吹奏楽では定番と言われる曲目や企画選曲の過程で出会った、セリフと混声合唱曲が含まれる曲にも挑戦致します。正にA-Windsの年に一度のチャレンジ企画、最後までごゆっくりお聴き下さい。最後に、本公演開催に当たり関係各方面より多大なるご支援賜りましたことを演奏会実行委員を代表して厚く御礼申し上げます。

A-Winds 12 2003年夏の演奏会 実行委員長 河村 穰香

## A-Winds 奈良アマチュアウィンドオーケストラ

Piccolo Flute  
佐藤由加里 Sato Yukari

Flute  
佐藤 司 Sato Tsukasa  
魚谷 陽子 Uotani Yoko  
延澤 優子 Nobezawa Yuko ※  
木下 瑞 Kinoshita Mizuho ☆

Oboe  
上嶋 悠子 Uejima Yuko  
中村 紘子 Nakamura Hiroko

Es Clarinet  
長尾 恭子 Nagao Kyoko

Clarinet  
畑澤 淳子 Hatazawa Atsuko  
初岡 ゆき Hatsuoka Yuki  
石田 契子 Ishida Keiko  
大江 奈々 Ohe Nana ※  
福田 彩 Hukuda Aya  
辻 美保 Tsuji Miho  
植田 洋美 Ueda Hiromi  
竹村 明恵 Takemura Akie  
日置 久美 Hioki Kumi  
森本 幸恵 Morimoto Sachie

Alto Clarinet  
大西 晴巳 Ohnishi Harumi

Bass Clarinet  
伊藤 博隆 Ito Hiroataka

Fogotto  
萱原美華子 Kayahara Mikako

Alto Saxophone  
行政美智子 Yukimasa Michiko  
島田 博一 Shimada Hirokazu

Tenor Saxophone  
初岡 和樹 Hatsuoka Kazuki

Baritone Saxophone  
奥田ひろみ Okuda Hiromi

Horn  
小川 貴子 Ogawa Takako  
日置 澄人 Hioki Sumihito  
久野 耕三 Kuno Kozo  
次田 哲平 Tsugita Teppei

Trumpet  
魚谷 昌克 Uotani Masakatsu  
大西 伸幸 Ohnishi Nobuyuki ※  
國元 昌広 Kunitomo Masahiro  
表 恭子 Omote Kyoko  
吉川 茂宏 Yoshikawa Shigehiro  
篠木 章江 Shinoki Akie  
行政 哲男 Yukimasa Tetsuo ☆

Trombone  
萱原 淳嘉 Kayahara Atsuyoshi  
上田 純子 Ueda Junko  
水谷 匡希 Mizutani Masaki  
中井麻記子 Nakai Makiko

Euphonium  
大西 善郎 Ohnishi Yoshio  
中村 雅美 Nakamura Masami

Tuba  
吉村 大介 Yoshimura Daisuke  
平野 幸子 Hirano Sachiko  
室安 望美 Muroyasu Nozomi

St.Bass  
吉田 康子 Yoshida Yasuko

Percussion  
平井 晶 Hirai Aki  
下村 智子 Shimomura Tomoko  
板垣 麻子 Itagaki Asako  
辻 歩 Tsuji Ayumi  
久保 寛美 Kubo Hiromi ☆  
武内 亮 Takeuchi Ryo ☆

Piano  
八木 真木 Yagi Maki  
松本 清香 Matsumoto Kiyoka ☆

Stage Manager  
河村 穰香 Kawamura Yutaka

※：休団団員 ☆：エキストラ

- A-Winds メンバー募集 ファゴット1名、パーカッション2名
- ・ A-Windsの活動趣旨(ウィンドアンサンブル&オリジナル重視) に賛同頂ける方
- ・ 自分で楽器が準備できる方 → 全ての活動に積極的に参加できる方 → 18歳以上の方
- お問い合わせ ■ 090-9217-1327 e-mail a-winds@classic.interq.or.jp

# A-Winds 12

SINCE 1999  
NARA AMATEUR WIND ORCHESTRA

## 2003年 夏の演奏会



2003・6・22(日) 14:00開演  
やまと郡山城ホール大ホール



主催 ● A-Winds 奈良アマチュアウィンドオーケストラ  
後援 ● 大和郡山市 大和郡山市教育委員会 奈良県吹奏楽連盟

指揮●魚谷 昌克

ポンテ・ロマーノ／J. ヴァンデルロースト

Carnival of Roses Overture / Jan Van der Roost

バンドのためのシンフォニックソング／R. R. ベネット

Symphonic Songs for Band / Robert Russell Bennett

1) セレナーデ / Serenade

2) スピリチュアル / Spiritual

3) セレブレイション / Celebration

intermission

指揮●佐藤 司

シンフォニア・ノビリッシマ／R. ジェイガー

Sinfonia Nobilissima / Robert Jager

メルビルの「水夫と鯨」から5つの情景より／F. マクベス

Of Sailors and Whales Op.78 / Francis McBeth

1) イシュメル / ISHMAEL

2) キークエッグ / QUEEQUEG

3) ファーザー・マッブル / FATHER MAPPLE

4) エイハブ / AHAB

5) 白鯨 / THE WHITE WHALE



2003年冬の演奏会

2003年11月24日(祝)14:00やまと郡山城ホール●入場無料

A-Winds初挑戦企画・・・こんな曲も聞いて頂きたい！

えっ!? そんなこともできるんですか?・・・って一体何?

序曲「ポンテ・ロマーノ」／J. ヴァン デル ロースト

2000年北イタリアのポン＝サン＝マルタン村の吹奏楽団のために書かれたこの曲は、この村に架かる石の橋「ポンテ・ロマーノ(ローマ時代の橋)」を題名にしています。この村の歴史は古く、紀元前三世紀のローマ時代にまで逆上ります。フランス、ベルギーとこの地域はローマ時代にはガリアと呼ばれており、現在でもイタリアではありませんが日常会話にはフランス語を使用するアルプスにほど近い山岳地域です。当時、鉄製の武器を持ち勇猛で名を馳せたガリアの戦士は世界最強のローマ軍を度々脅かしたと言われて

います。曲はこの村を通り、更にアルプス越えて遠征するローマ軍の様子を描写しています。装飾が施されきらびやかに彩られまぶしいばかりの甲冑を身につけ、勇ましく続く行軍の様は冒頭のファンファーレからマーチになり、主題の変化によって目の前を通り過ぎて行く隊列の移り変わりが、鮮やかに表現されています。

バンドのためのシンフォニック・ソング／R. R. ベネット

1894年アメリカ生まれのロバート・ラッセル・ベネットはこの作品について自ら次の様に話しています。「シンフォニック・ソングは歌であり、また同時に舞踊組曲もしくは情景の曲でも有る。」彼の頭の中にはどのような風景が浮かんでいたのでしょうか。三つの楽章からなる作品は1957年、アメリカの学生団体の委嘱により作曲されました。

第一楽章 セレナーデ

セレナーデはゆったりしたテンポで、甘い旋律を歌うものですが、このセレナーデは複雑なリズムに乗せて、木管楽器がセレナーデを歌います。一味違ったセレナーデと言えるでしょう。

第二楽章 スピリチュアル

黒人霊歌として有名なスピリチュアルは、アメリカの奴隷制度とキリスト教と彼らの故郷のアフリカ音楽との融合したものです。物静かで力強い祈りの歌と言えるでしょう。

第三楽章 セレブレイション

陽気なお祭騒ぎは「祝典」のタイトル通りです。メロディは“Old Gray Mare”として知られるアメリカ民謡です。賑やかに踊りの輪が広がる情景が目には浮かぶ様です。

シンフォニア・ノビリッシマ／R. ジェイガー

「吹奏楽のための高貴なる楽章」の題名通り、曲は気品に溢れ堂々とした旋律で始まります。次に軽快なテンポで勇壮な展開になり、劇的な展開を経て華やかに曲を閉じます。1960年代に作曲され日本全国で盛んに演奏された様です。余りの人気に吹奏楽では破格のシングル盤のレコードが発売されたという話もある程です。

作曲者のジェイガーはアメリカ人ですが日本での人気は高く、数多くの作品を委嘱され全日本吹奏楽コンクールの課題曲も作曲しています。今でも演奏され続けるこの曲は吹奏楽では永遠に受け継がれる名曲と言えるでしょう。

メルヴィルの「水夫と鯨」から五つの情景より／F. マクベス

ハーマン・メルヴィルの代表作「白鯨」は1851年に発表されました。(Herman Melville: Moby-Dick or the Whale)そして1853年4月19日ペリー率いるアメリカ合衆国東インド艦隊が琉球に到着し、小笠原を経て6月3日「黒船四隻」が浦賀沖に到着しました。ペリー来日理由はアメリカの捕鯨船の補給基地確保のためと現代の日本史の教科書は教えています。この小説は同時代を描いたルポルタージュだったといえるでしょう。作曲家マクベスはこの世界的に有名な海洋小説に触発されてこの作品を生み出しました。物語は次の様なものです・・・

1841年も暮れようとするマサチューセッツ州ニュー・ベッド・フォードの港にやってきた青年イシュメルは港の酒場『潮吹き亭』に、身体中どころか顔にまで入れ墨をした南洋の島の首長の息子キークエッグと相部屋の宿をとる。二人は捕鯨船ピークオッド号で働く事になる。町には遠洋捕鯨に出掛ける船乗りが訪れる教会があり、捕鯨船をかたどった説教台から神父が重々しく説教垂れ、会衆は神妙に耳を傾ける。ピークオッド号の船長はエイハブ。巨大な白鯨に片足を食いぢぎられ、鯨の顎骨を義足にして昼は船室に閉じこもり、夜には甲板に義足の音を響かせ白鯨(モビーディック)への憎悪と復讐の鬼と化しているのである。ある日、他の捕鯨船から白鯨の情報を得たエイハブは猛然と突き進む。予言者は言う「エイハブが海に沈み浮き上がって手招きする時、皆に最期が訪れる」息詰まる死闘の末、流れてきた棺桶に掴まって一命を取り留めたイシュメルを残し、クルー全員が深い海に消えた。そして彼がこの物語を後世に伝えるのだ。

曲は五楽章からなり、それぞれの楽曲には情景を説明するセリフが添えられています。

1. イシュメル 2. キークエッグ 3. ファーザー・マッブル  
4. エイハブ 5. 白鯨

第三楽章は混声合唱曲で歌詞の内容は凡そ以下の通り

鯨のあばらの恐怖 不気味な暗闇が弧を描いて覆いかぶさる  
神の光に照らされた波のうねりは破滅へと誘う  
暗黒の苦難の中で神に祈る 唱えた事さえ無い神の名を呼ぶ  
祈りは聞き届けられ 鯨の恐怖から解き放たれる  
私の物語は永遠に語り継がれる 悦楽にも似た恐怖の時を  
私は神を讃える 全知全能の神の名を・・・

●プロフィール

Profile

A-Winds 奈良アマチュアウィンドオーケストラ

A-Winds 奈良アマチュアウィンドオーケストラは1999年10月古都奈良に誕生した新しいアマチュア吹奏楽団です。現在は、やまと郡山城ホールを本拠地に活動しています。「A-Winds (エイ・ウインズ)」のAは「アマチュア(AMATEUR)」のAであり、アマチュアならではの音楽づくりを追求する事を標榜しています。演奏者一人一人の音楽づくりを演奏に反映できる、管打楽器アンサンブルの延長上としての最少人数の吹奏楽=ウィンドアンサンブルを志向し、また吹奏楽の特性を最大限に発揮できる吹奏楽オリジナル曲を中心に取り上げていくことを活動方針としています。

ホームページ <http://www.interq.or.jp/classic/a-winds/home.htm>